

1. 感染症速報（彦岐地区）

令和7年11月14日作成

2025年 第45週 11月3日 ～ 11月9日

作成：長崎県彦岐保健所 企画保健課

疾患名	状況 定点当り	疾患名	状況 定点当り	疾患名	状況 定点当り	疾患名	状況 定点当り	疾患名	状況 定点当り
インフルエンザ	3.33	RSウイルス 感染症	0.00	咽頭結膜熱	0.00	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	0.00	急性呼吸器 感染症(ARI)	42.00
警戒:開始30 終息10		警戒:開始 - 終息 -		警戒:開始3 終息1		警戒:開始8 終息4		警戒:開始 - 終息 -	
感染性胃腸炎	2.00	水痘	0.00	手足口病	0.00	伝染性紅斑 (りんご病)	0.00	※定点数3:インフルエンザ 新型コロナウイルス感染症 急性呼吸器感染症(ARI)	
警戒:開始20 終息12		警戒:開始2 終息1		警戒:開始5 終息2		警戒:開始2 終息1		※定点数2:上記以外の疾患	
突発性発しん	0.00	ヘルパンギーナ	0.00	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	0.00	新型コロナウイルス 感染症	1.00	※急性呼吸器感染症(ARI)とは、急性の上気道 炎(鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎)又 は下気道炎(気管支炎、細気管支炎、肺炎)を指す 病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、 新型コロナウイルス、RSウイルス、咽頭結膜熱、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなど も含まれ、報告数は重複します。	
警戒:開始 - 終息 -		警戒:開始6 終息2		警戒:開始6 終息2		警戒:開始 - 終息 -			
発生報告 なし		少数の発生あり		流行に注意 【注意報レベル】		流行中 【警戒レベル】			

※警戒レベル基準値は表示のとおり(-は設定なし)。注意報レベル基準値は、インフル:10 水痘:1 その他は設定なし。

2. トピックス

★11月は「長崎県感染症対策強化月間」です!!

長崎県は、県民の感染症対策に対する理解・協力を促進するため、今年度から11月を「長崎県感染症対策強化月間」と設定しました。

「感染症」とは、病気を引き起こす小さな生物（病原体）が体に侵入して症状が出る病気のこと、病原体は細菌、ウイルス、真菌、寄生虫などに分類されます。病原体の性質により、接触感染、空気感染、飛沫感染などの感染経路があります。

いずれの感染症においても、手洗い、換気、マスク着用等の咳エチケットといった基本的な感染症対策が有効です。加えて、一部の感染症においては、発症や重症化に一定程度予防効果のあるワクチンもあります。正しい知識を身につけて、感染対策を心がけましょう。また、新しい感染症の流行に備えて、日頃から準備をしておきましょう。

☆感染症流行への備え（内閣感染症危機管理統括庁ページより抜粋）

- ・食料品や衛生用品（マスク、手指消毒剤など）、生活必需品を少し多めに準備しておく
- ・家庭で、学校、保育園等の休業への対応を事前に話し合っておく
- ・職場で、日頃からオンライン会議やテレワークの準備をしておく

（参考）内閣感染症危機管理統括庁

・[感染症の基礎知識](#)

・[基本的な感染対策](#)

・[次の感染症危機に備えましょう](#)



★腸管出血性大腸菌感染症に注意しましょう

彦岐地区では、第44週及び第45週において計4件の腸管出血性大腸菌感染症（O157）発生が報告されました。腸管出血性大腸菌感染症は、O157やO111などの「腸管出血性大腸菌」による感染症です。主な感染経路は、菌に汚染された食品や患者の便で汚染されたものに触れた手を介した経口感染です。2日から9日の潜伏期間の後、腹痛・水様性下痢・血便などの症状を呈します。無症状の場合もありますが、発症者の約6%から7%が、溶血性尿毒症症候群（HUS）や脳症などの合併症を起こし、時には死亡することもあります。特に、抵抗力が弱い小児や高齢者等は注意が必要です。次の点に気をつけて感染予防に努めましょう。また、症状があるときは速やかに医療機関を受診しましょう。

○帰宅時やトイレ・オムツ交換の後、調理・食事の前には石鹸と流水で十分に手を洗いましょう

○肉類を調理する際は十分に加熱しましょう

○生肉を調理する際、器具は専用のものにするか、使用後すぐに十分な洗浄・消毒をしてから他の調理に使用しましょう

○下痢症状のあるときは、シャワー浴にするか、最後に入浴しましょう

※詳しくは、添付資料をご確認ください

★11月は「薬剤耐性（AMR）対策推進月間」です

国は、平成28年度から毎年11月を「薬剤耐性（AMR）対策推進月間」として定め、薬剤耐性に関する全国的な普及啓発活動を推進しています。

「薬剤耐性」とは、感染症の原因となる細菌に抗菌薬・抗生物質が効かなくなることです。

薬剤耐性（AMR）の拡大を防ぐためには、一人ひとりが抗菌薬を適切に使用することが重要です。抗菌薬は、医師の指示どおりに適切な量を適切な期間飲みましょう。他の人に処方されたもの、家に残っているものを自己判断で飲まないようにしましょう。

また、抗菌薬の使用機会を少なくするために、感染症を予防すること、周りに広げないようにすることも重要です。日ごろから、正しい手洗いの徹底やアルコール消毒、適切なマスクの使用などで感染予防に努めましょう。

[（参考）AMR臨床リファレンスセンター](#)

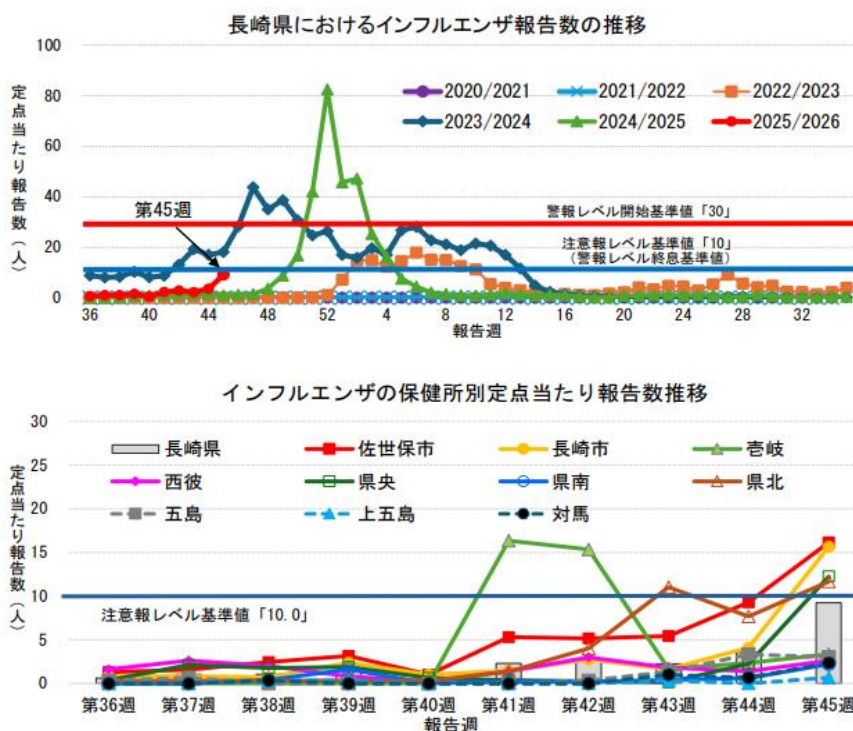
★インフルエンザを予防しましょう

荏岐地区では2025年第43週：1.67、第44週：2.33、第45週：3.33と推移していますが、**長崎県全体の第45週の患者報告数は470人で、定点当たり報告数は「9.22」でした。前週の2.6倍の報告数となり、注意報レベル基準値の「10.0」に迫っています。**

地区別では、ほとんどの地区で前週より増加し、佐世保地区（16.14）、長崎地区（15.64）、県央地区（12.25）、県北地区（11.67）は注意報レベルの報告数となりました。

今後の動向に注意しながら、手洗いの励行、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策に努め、感染予防を心がけましょう。また、インフルエンザワクチンは、発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。希望される方は、流行に備えて、ワクチンを接種しましょう。

[※詳細は、長崎県感染症情報センターホームページ「インフルエンザ」をご覧ください。](#)



《12月1日は世界エイズデーです！》

世界保健機関（WHO）は、エイズに関する正しい知識等について啓発活動を推進し、エイズ蔓延防止および患者・感染者に対する差別・偏見の解消等を図ることを目的として、12月1日を「世界エイズデー」と定めています。

エイズは、性的接触、母子感染、血液を介した感染経路によるヒト免疫不全ウイルス（HIV）に感染しておきる病気です。エイズは、早期発見・早期治療で発症を予防することで、健康な時と同等の生活を送ることができるようになりました。早期発見・早期治療が何よりも大切です。

少しでも不安がある方は検査・相談を受けてみませんか？

【壱岐保健所 無料・匿名 エイズ夜間・即日検査のご案内】

○日時：12月1日（月）13:00～19:00

○検査項目：HIV（エイズ）

※同時に梅毒、クラミジア検査もできます。

○問診・採血等～結果お伝えまでは約2時間程度です。

○場所：壱岐保健所（壱岐市郷ノ浦町本村触620-5）

○備考：要予約（オンライン予約）



【詳細・予約申込はこちら】

<https://www.pref.nagasaki.jp/object/kenkaranooshirase/oshirase/754942.html>



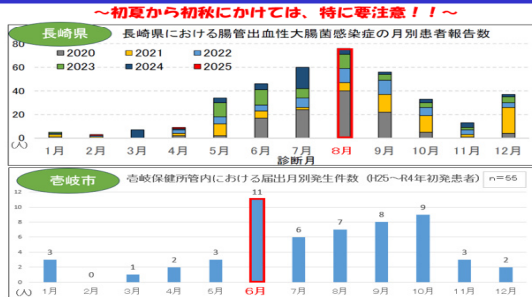
～知って防ごう！腸管出血性大腸菌感染症～Part 1

- ・夏になると、O157などの腸管出血性大腸菌感染症の危険性が高まります。
- ・肉の加熱不足や、生食は注意が必要です。しっかり加熱して食べましょう。また、生鮮野菜を食べて感染した事例も発生していますので、野菜はしっかり洗って食べましょう。なお、野菜の腸管出血性大腸菌を除菌するには、湯がき（100℃の湯で5秒間程度）が有効であるとされています。
- ・特に、抵抗力の弱い乳幼児や高齢者は重症化したり、集団感染を起こすことがあるので注意が必要です。

香川県では6月の発生が最も多く、県内でも罹患率の高い地域です！



腸管出血性大腸菌感染症 患者報告数（月別）



『腸管出血性大腸菌感染症』って、どんな病気？

- **原因菌** ペロ毒素を産生する大腸菌（血清型：O157、O26、O111など）
- **症状** 激しい腹痛、下痢、血便
重症化すると、腎臓や脳に後遺症を残す場合もあります
- **注意時期** 暑くなるとともに細菌の増殖が進むため、夏場は特に注意が必要！
- **潜伏期間** 1日～2週間（平均3～5日）
- **感染経路** 菌が付いた食べ物を口にすることや、患者の便で汚染された物などを介して感染
特に保育所など乳幼児の集団生活では注意が必要！



～知って防ごう！腸管出血性大腸菌感染症～Part 2

- ・夏になると、O157などの腸管出血性大腸菌感染症の危険性が高まります。
- ・肉の加熱不足や、生食は注意が必要です。しっかり加熱して食べましょう。また、生鮮野菜を食べて感染した事例も発生していますので、野菜はしっかり洗って食べましょう。なお、野菜の腸管出血性大腸菌を除菌するには、湯がき（100℃の湯で5秒間程度）が有効であるとされています。
- ・特に、抵抗力の弱い乳幼児や高齢者は重症化したり、集団感染を起こすことがあるので注意が必要です。

気をつけないと、感染が広がってしまいます！



何が怖いの？

● 感染力が非常に強い

- ・食品にごく少量付いていても感染する
- ・入浴やタオルの共用、トイレのドアノブなどに付着した菌などにより、家族内で二次感染を起こすことも！

● 潜伏期間が長い

- ・発症してからでは原因の特定が困難で、汚染された食品が流通する
- ・二次汚染などで感染が広がる危険性も！

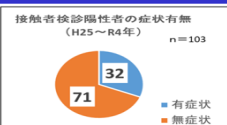
● 重症化する場合がある

- ・発症者の約6～7%が、溶血性尿毒症症候群（HUS）や脳症などの合併症を起こし、時には死亡することもある
- ・特に、抵抗力が弱い小児や高齢者等は注意が必要！

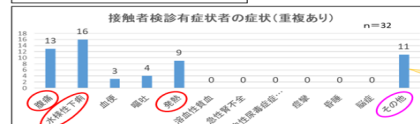


無症状や軟便程度でも

陽性になる方がいます！



接触者の検査では、陽性者の約7割が無症状！
症状があっても、軟便程度の軽い方もいます！



<その他の内訳>
軟便：7
下痢：3
軟便～下痢：1

図：香川県保健所管内の状況（香川県保健所調べ）

～知って防ごう！腸管出血性大腸菌感染症～Part 3

- ・夏になると、O157などの腸管出血性大腸菌感染症の危険性が高まります。
- ・肉の加熱不足や、生食は注意が必要です。しっかり加熱して食べましょう。また、生鮮野菜を食べて感染した事例も発生していますので、野菜はしっかり洗って食べましょう。なお、野菜の腸管出血性大腸菌を除菌するには、湯がき（100℃の湯で5秒間程度）が有効であるとされています。
- ・特に、抵抗力の弱い乳幼児や高齢者は重症化したり、集団感染を起こすことがあるので注意が必要です。



感染予防のポイント

予防① 手洗い

こまめに石けんで手を洗いましょう。

どんなときに手洗いですの？

- ・外出から帰ってきたとき
- ・調理の前、食事の前
- ・トイレ・おむつ交換の後
- ・嘔吐物の処理をした後



流水で！

予防② 食品の取扱い

- ・肉類は、十分に中まで火を通し、焼く香と食べる箸を使い分けましょう。
- ・肉を扱った調理器具は、まめに洗うか使い分けたり、熱湯等で消毒してから他の調理に使いましょう。
- ・生で食べるサラダなどは、肉料理の前に調理しましょう。
- ・野菜や果物は、水でよく洗いましょう。
- ・調理後の長期保存を避けましょう。



症状がでたら気をつけること

- 下痢、血便等の症状が続く場合は、速やかに医療機関を受診する
- 集団生活（保育所など）の場合は、症状や検査中であることを園へ伝える
- 患者のおむつや便の処理は、使い捨て袋を使用する
- タオルの共有は避け、入浴は最後にするかシャワーにする
- 感染が疑われる子ども等のプールは控える

医療機関から発生届が出ると、保健所から聞き取り調査や検便等を行います。ご協力をお願いします。

